第4章

特徴的な取組の紹介

児童生徒の「学力」と「自己効力感」を伸ばした学校の実践を紹介します。

各学校において、本章で掲載されている児童生徒の学力の伸びを引き出した効果的な取組を、今後の取組の参考としてお役立てください。

今年度は、以下の８校の取組を紹介します。

新座市立池田小学校　狭山市立水富小学校
本庄市立本庄西小学校　蓮田市立蓮田南小学校
蕨市立東中学校　所沢市立富岡中学校
上里町立上里北中学校　羽生市立西中学校

新座市立池田小学校の取組

１　学校の概要

開校 51 年目を迎える本校は、新座市の南東部に位置し東京都に学区が隣接している、児童数 462 名、学級数 19 の学校である。「教職員の率先垂範」「有言実行」「積極的地域対応」「現状打破」「人権感覚」「凡時徹底」の６つのキーワードを経営方針として掲げ、学校教育目標「健康で よく学ぶ 心のゆたかな子」～「やる気 ゆう気 げん気あふれる池田小学校」～の具現化を目指している。

今年度は、「Society5.0 時代を生き抜く児童を育てる池田小学校－学習の個別最適化･多様な協働学習の創造－」をスローガンに掲げ、ICT 機器の活用による授業改善及び働き方改革を進めることを明確に定め、児童が学習・運動に積極的に取り組めるように指導を行っている。

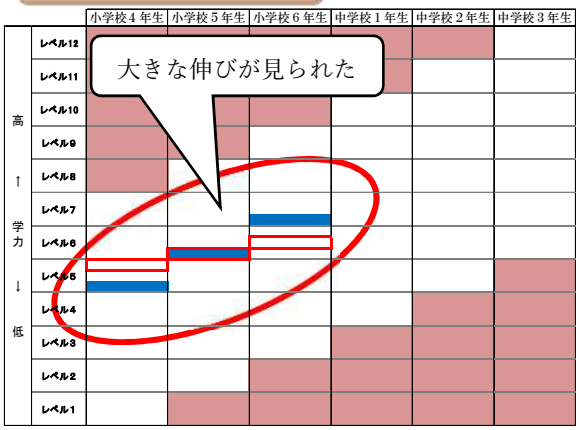
【池田小のシンボル やまざくら】

２　令和４・５年度の結果

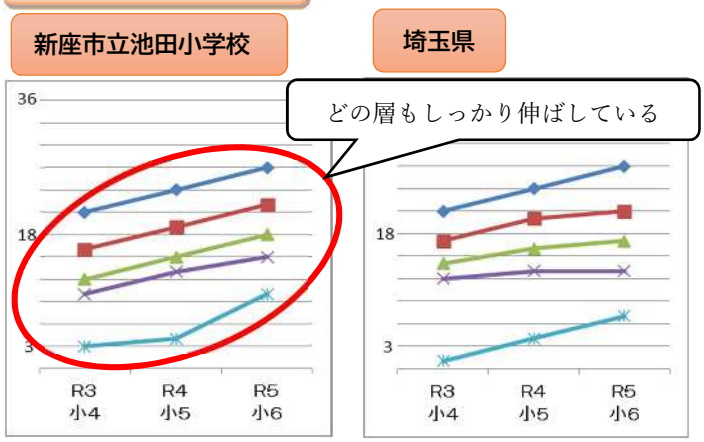
小学校５年生→６年生の取組　**【算数】**

（１）学力の伸びからみられる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



		小５	⇒	小６
自己効力感	自校	3.4	＋0.3	3.7
	県平均	3.3	＋0.2	3.5

小４時は算数の学力レベルが県平均を２下回っていたが、小６時には逆に２上回った。どの層の児童も学力を伸ばしているが、特に小５から小６における下位層の伸びが著しい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　Ｔ．Ｔ.（ティーム・ティーチング）、少人数指導及びＩＣＴ機器の活用

算数専科を配置してＴ．Ｔ.を実施している。単元の内容や各学級の実態を考慮しながらＴ１が「考えるのが楽しい算数・分かると嬉しい授業」を展開し、T2 が躓いている下位層の支援を行っている。問題演習の時間は習熟度に応じてグループ分けを行い、個に応じた支援を行っている。ロイロノートを活用して、自分の考えを記したノートの画像を提出させることで、画面共有機能を用いて互いの考えを見合うことが可能となり相互理解を深めることができた。

【ロイロノートで考えを共有】

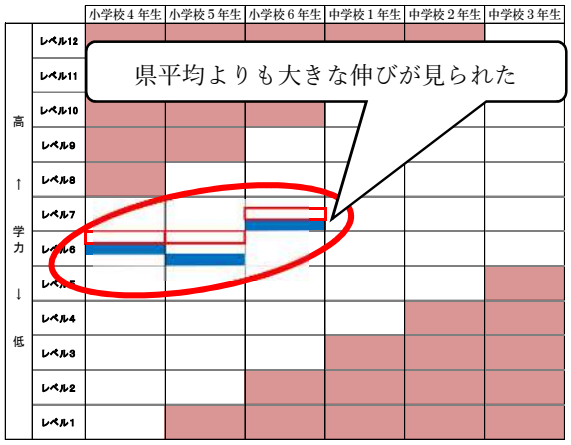
イ　自己効力感を伸ばす取組（３段階ドリル学習：教科書→プリント→ＡＩ型ドリル／放課後算数教室）

教科書の問題については途中式や説明などを含めて添削を行い、正解するまで支援を行っている。その後プリント学習に取り組ませ、全問正解するまで反復練習を教師が見届けている。指導を行っている。新座市で導入している AI 型ドリルを積極的に使用し、「Qubena マネージャー」画面を活用し児童の取組状況を確認している。躓いている児童を対象に、算数専科による補充学習を休み時間や放課後に行っている。「できるまで解く・分かるまで解く」を合い言葉に、児童は粘り強く取り組んでいる。この取組は４年生より実施しており、日々の積み重ねが児童の学力向上に繋がったと考える。

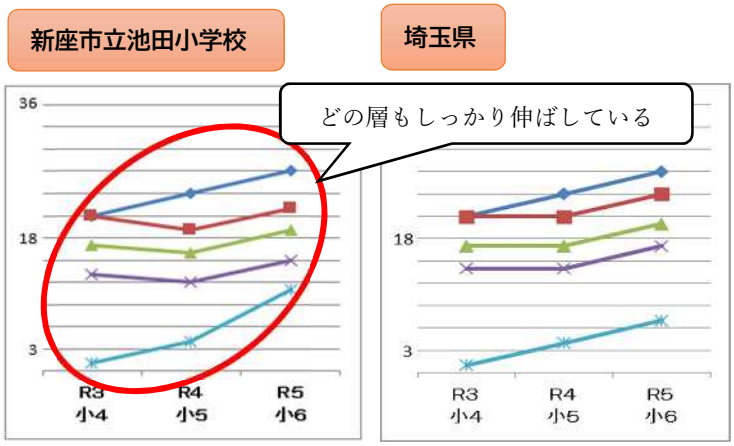
小学校５年生→６年生の取組【国語】

（１）学力の伸びからみられる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



自己効力感【再掲】		小５	⇒	小６
	自校	3.4	＋0.3	3.7
	県平均	3.3	＋0.2	3.5

小４から小５にかけては学力レベルを１落としたが、小５から小６にかけては県平均の伸びが２に対して、本校は学力レベルが３伸びた。また、全ての層の児童が学力を伸ばし、特に下位層の伸びが著しい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

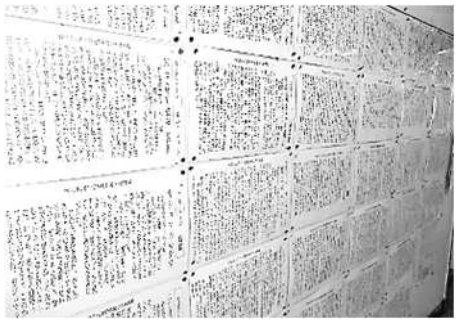
ア　埼玉県 HP 上の復習シートやコバトン問題などへの取組

語彙力向上のために家庭学習を充実させることを目指し、通常の宿題以外に補充学習や自主勉強の題材として「**復習シートやコバトン問題**」を配布し、各自に取り組ませている。漢字は、テストの回数を増やし、同じ内容を２回行っている。また、学習した漢字は文章に積極的に使うように指導している。辞書を机の側に置き、意味調べができるようにすることで語彙力を高めている。

イ　自己効力感を伸ばす取組（作文の指導）

本校では、新聞の作文コーナーへ欠かすことなく投稿しており、その取組が５年目を迎えている。毎週テーマを記した原稿用紙を児童に配布して提出させ、必ず添削を行い返却している。児童は返された作文を見ながら清書をして、合格レベルに到達するまで提出を繰り返している。その結果、これまで数多くの作文が新聞に掲載されてきた。この積み重ねにより、児童の作文に対する苦手意識は減り、表現力を着実に伸ばすことができた。

また、国語以外の学習でも、考えや振り返りを書く場面で成果が現れている。



【掲示してある掲載作品】

学校全体での取組

（１）　**学力向上に関する校内研修において、児童の伸ばしたい力の確認及び実践**

国語
①条件を満たした文を分かりやすく端的に書く力
②学習した漢字などを積極的に使い、自分の意見を文章としてまとめる力
③限られた時間で文章や資料を早く正確に読みとる力
④何について述べられているのか、何を伝えたいのか、何が大事なのか、筆者作者の意はどんなことか等を整理しながら読む力

算数
①文章を数字や式、図で表してその意味を自分で説明する力
②問題文、表、図形、グラフ等、与えられた資料から必要なデータを選んで問題を解く力
③自分の考えだけではなく、他の人の考えも説明する力
④タブレットなどの ICT 機器を積極的に活用して、相互の考えを伝え合う力

（２）　**国語に特化した 10 分の朝学習の実施**

10 分間の朝学習を国語に特化し、月曜日は読書、水曜日は国語プリントやＡＩ型ドリル、そして金曜日は書く活動を行っている。

狭山市立水富小学校の取組

1　本校の概要

本校は埼玉県南西部に位置し、開校 131 周年を迎える。児童数 372 名、学級数 14 と各学年、特別支援学級とも２学級ずつの学校である。本校は、保護者や地域の皆様から温かく見守られ、教職員一同「チーム水富小」として、目指す学校像「家庭・地域と共に、児童が成長を実感でき、笑顔あふれる水富小学校」を具現化するために日々邁進している。児童も教職員の指導と期待に応えようと直向きで好奇心旺盛な眼差しで、「いつでも笑顔・本気」と「いつでも挑戦・感謝」で勉強や運動、諸活動に取り組んでいる。

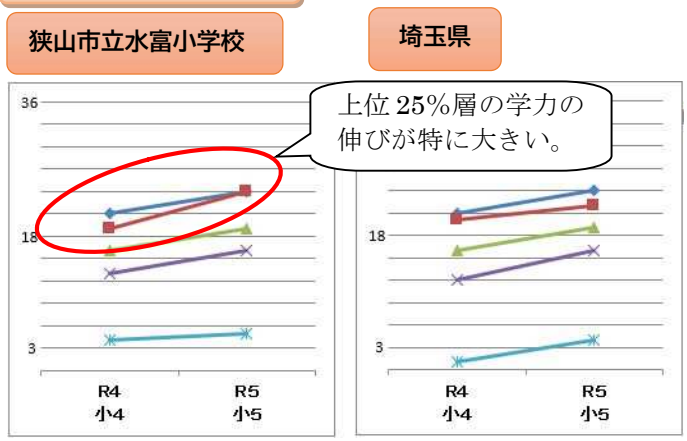
2　令和４・５年度の結果

小学校４年生→小学校５年生の取組【国語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

学力の伸びの状況



		小４	⇒	小５
自己効力感	自校	3.4	＋0.3	3.7
	県平均	3.5	＋0.1	3.6

小４時は国語の学力レベルが県平均を１下回っていたが、小５時には県と同レベルとなった。特に上位 25%層の児童も学力を伸ばしている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　児童相互の学び合いによる思考整理、教材にしかけをつくる

ペアやグループで話す時間をとることで、思考が整理された。何を書いていいか分からない児童にとっても友達の考えを聞くことでヒントにつながり、安心して学習に臨むことができた。また、教科書に例示されている手本となる教材文の中で、注目させたいところの言葉を意図的に変えて焦点化させたり、順序を入れ替えて提示したりすることで、より気持ちが伝わる言葉や工夫をつかませた。

イ　自己効力感を伸ばす取組（学級活動の充実、一人一役で自分の居場所づくり）

後述する学校全体で取り組んでいる学級活動を充実させた。学期の節目での振り返りだけでなく、クラスをよりよくするため係活動の充実なども話合いを通して進めていった。

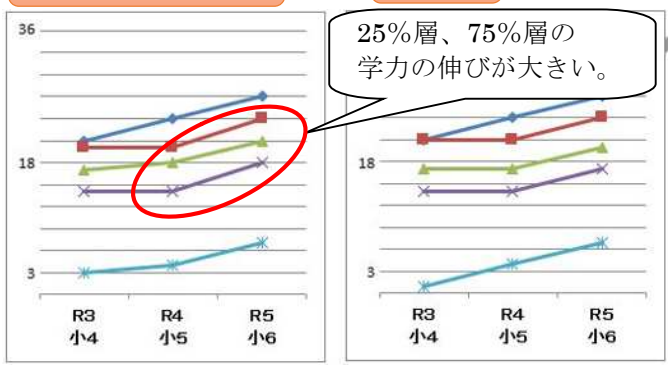
学年全体で「一人一役」を実施し、当番活動だけでなく様々な行事等で実行委員を募り、責任感を高めつつ学級の中での自分の居場所を作り、自分の頑張りで学級や学年全体が伸びゆくことを実感させた。

小学校５年生→小学校６年生の取組【国語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

学力の伸びの状況



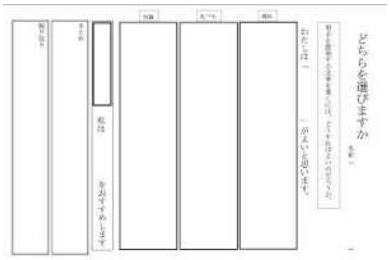
		小５	⇒	小６
自己効力感	自校	3.3	＋0.1	3.4
	県平均	3.3	＋0.2	3.5

小４時は国語の学力レベルが県平均を１下回っていたが、小６時には逆に２上回った。どの層の児童も学力を伸ばしている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　児童の実態に合わせた教材、スモールステップのワークシート

教材を吟味し、児童の実態に合った作文題材にするなど教材研究に努めた。さらに、１単位時間でここまで書けばよいということを明確にしたワークシートを活用した。



イ　自己効力感を伸ばす取組（学級活動の充実、多角的な視点で良さを見つけて褒めて伸ばす指導）

４年生同様、学級活動の充実を図った。さらに高学年としてクラス内の一人一役だけでなく、たてわり活動、委員会活動などでも責任をもって仕事に取り組んでいった児童を褒めて伸ばしていった。時間割を工夫して２学級のよさを生かし担任同士で交換授業を行うだけでなく、専科や教務部の教師も多く授業に入り、複数の教師で児童を見守り、多角的な視点で児童のよさを見つけ褒めて伸ばしていく指導を続けていった。

学校全体での取組

（１）学校課題研究における全校を上げての国語の授業改善

令和３年度までの埼玉県学力・学習状況調査の結果を分析し、自らの考えをまとめ、自分の言葉で表現する力が弱いことを学校全体で共通理解し、研究主題として取り組んだ。『語彙力等の言語感覚を高め、日常的に自分の思いを書く習慣を身に付ければ、自らの考えを自分の言葉でまとめ、表現する力を育成することができるのではないか。』という仮説をもとに研究を進めた。

仮説にせまるために、①ワークシートや付箋、短冊、構成カードを工夫して作成し、スモールステップによる作文指導、②書き方がわからないという児童のために、文型の雛型を教室掲示して可視化、グループ学習による学び合いを通した文章校正、③語彙力を高める工夫として、発達段階に合わせて低学年は『言葉の本』などの掲示資料、中学年は朝自習の時間を活用した国語辞典による意味調べ、高学年は自主学習で調べ学習などを具体的な手立てとして取り組んだ。

（２）自己効力感を伸ばす取組

学級活動の充実、特に学級活動（１）に全学年で取り組んだ。平成 30 年～令和２年度まで学校課題研究で取り組んだ内容を、研究終了後も継続的に実施した。学級活動（１）を行うことで自分の意見が学級全体に反映されることや、他者と折り合いをつけて意見をまとめていくことを経験していき、自己効力感を高めていった。

本庄市立本庄西小学校の取組

１　本校の概要

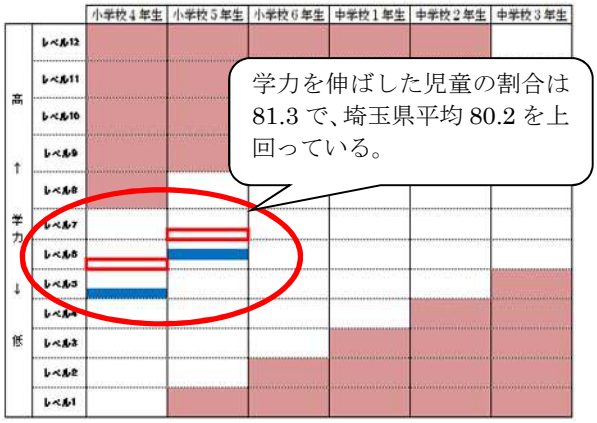
本校は、明治６年に設立され、今年度 150 周年を迎えた児童数 265 名、学級数 12 の伝統ある学校である。学校教育目標「気づき　考え　実行する」の下、全教職員が一丸となり目指す児童の育成に取り組んでいる。本庄市より体力向上の委嘱を受け、昨年度に引き続き今年度も、「自ら学び、自分の思いや考えを表現できる児童の育成～健やかな体づくりを通して」を学校研究課題としている。全ての教科において自分の考えを表現できるよう、学び合う活動や ICT 機器の利活用等に力を入れている。

２　令和４・５年度の結果

小学校４年生→小学校５年生の取組【国語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

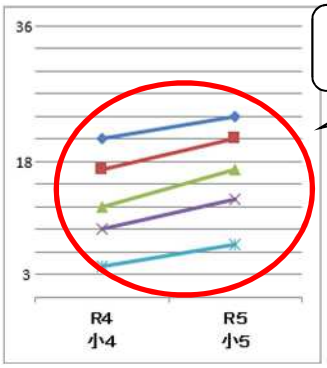
今までの学力の変化



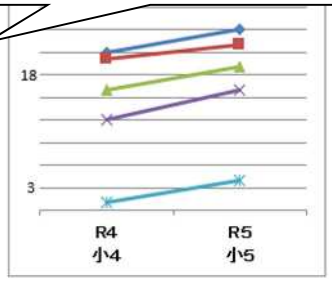
学力を伸ばした児童の割合は 81.3 で、埼玉県平均 80.2 を上回っている。

学力の伸びの状況

本庄市立本庄西小学校



埼玉県



どの学力層も学力を伸ばしている。特に、中間層の伸びが大きい。

		小４	⇒	小５
自己効力感	自校	3.5	+0.5	4.0
	県平均	3.5	+0.1	3.6

上位２５％～下位２５％の中位層の児童が学力を大きく伸ばしている。全体的な学力の伸びも県平均よりも大きい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　「国語のあゆみ」（ワークシート）の作成

物語や説明文の学習では、単元を通したワークシートを作成し、学びの積み重ねを行った。

イ　ＩＣＴ機器の利活用

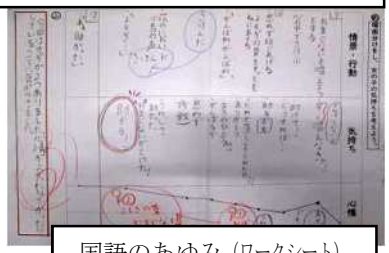
叙述をもとに考える学習では、毎時間ジャムボードやドキュメントを使用し、グループで話し合いながら共同編集することで、自分の考えをもてない児童（低位層）も、考える手がかりを見付けられるようにした。

ウ　学年掲示物の活用、３年生までの復習プリントの作成と活用

県・市で作成している問題集や前年度までの学習問題をもとに、毎日取り組める学習問題コーナーを作成し、下校の際に答え合わせをするようにした。また、１年生から復習プリントを作成し、年度末の授業に活用した。

エ　自己効力感を伸ばす取組（見通しをもたせた、主体的な学び）

本庄型授業スタンダード[めあて→見通し→学び合い／習熟（くり返し練習）→まとめ→ふり返りという授業の流れを徹底した。特に、見通しの時間を大切にし、児童が主体的に学べる授業づくりを行った。支持的風土の授業において切り返しの発問をたくさん行い、児童の思考を深めた。総合的な学習の時間、道徳、学活等で考えて話す機会を設け、表現できる児童の育成を図った。



国語のあゆみ（ワークシート）

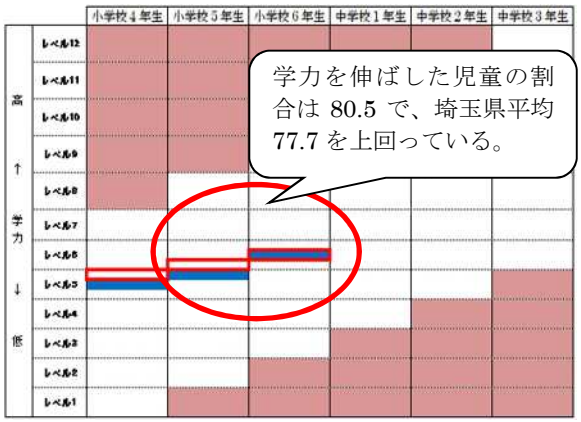
ＩＣＴ機器の活用

学年掲示物の活用

小学校５年生→小学校６年生の取組【算数】

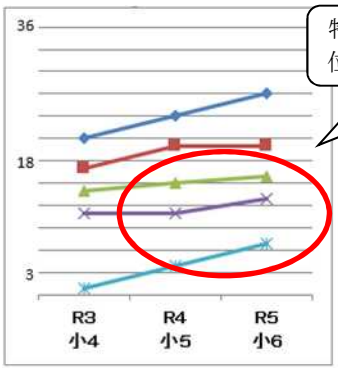
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

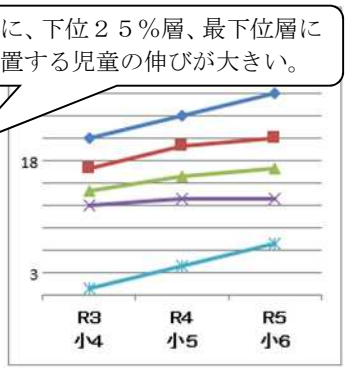


学力の伸びの状況

本庄市立本庄西小学校



埼玉県



		小５	⇒	小６
自己効力感	自校	3.4	+0.3	3.7
	県平均	3.4	+0.1	3.5

前年度大きく伸びた上位２５％層はやや伸び悩んだが、概ね学力を伸ばしている。全体的な底上げが図られてきている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　児童の「分かった」、「できた」を大切にした授業づくり

つまずく児童が多い学習内容の練習問題は、基本的な内容を中心とした。また、児童の理解度に合わせた視覚教材（デジタル教材や自作パワーポイント資料等）を活用した。さらに、毎時間の授業で練習問題を解く時間を設定し、コバトン問題集や自作プリント等を行わせることで、学習内容を着実に定着させた。

イ　第４学年で取り組んだ算数の復習

朝学習の時間に、現在学習している単元に関係する計算テストを継続して行い、基本的な計算力を定着させた。計算でつまずいている児童の苦手意識を和らげることができた。

ウ　少人数での学習

第５学年から習熟度別少人数指導や個別指導での補充問題に取り組ませた。文章問題を整理して図に表し、根拠の説明をノートに記述する指導を丁寧に行った。

エ　自己効力感を伸ばす取組（「できた喜び」「伝わった喜び」を体験させる）

低学力の児童には、教科書の練習問題や計算プリントに多く取り組ませ、できたという喜びを味わわせた。また、お互い質問し合い学び合える環境を整えた。基礎・基本を大切にし、計算ドリルや計算プリントにたくさん取り組ませた。やり方が分からない時は答えを見て、どのように解けばよいのかを自分で考えてみることも大切であることを指導した。答えにたどり着けずとも、答えを導き出すために取り組んだ過程を大切にし、できたところまでを称賛し自信をもたせた。

自分の考えを整理し、相手に伝わるように説明させることで、分かってもらったときの喜びを味わわせることで、自己効力感を伸ばすことができたと考える。

学校全体での取組

○　県学調分析シート（色分けツール）、コバトンのびのびシート、コバトン問題集の活用をした。

○　正答率の低い問題を共有し、低学年から継続して授業で取り組ませた。

○　学習に入る前に指導内容を吟味し、確実に身に付けさせる内容と発展的な内容を明確に分け、学年で共通理解を図った。

○　朝学習の時間を使い、学年の課題に応じた学習問題を作成し実施した。

蓮田市立蓮田南小学校の取組

１　本校の概要

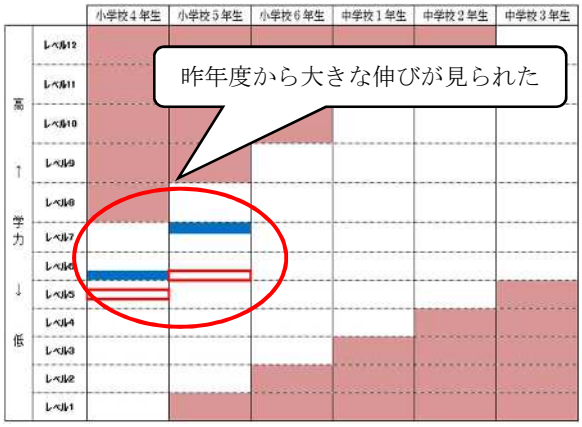
本校は、全校児童 667 人、学級数 24 学級の大規模校で、蓮田駅から徒歩圏内に位置している。今年度 150 周年を迎え、学校教育目標「考える子　元気な子　仲よくする子」の実現に向けて教育活動に励んでいる。令和に入ってからの４年間は体育科、キャリア教育、外国語科についての研究を行い、今年度からは目指す児童像を「伝え合える子」と設定し全教科を通じて思考力・判断力・表現力を育成する研究に取り組んでいる。

２　令和４・５年度の結果

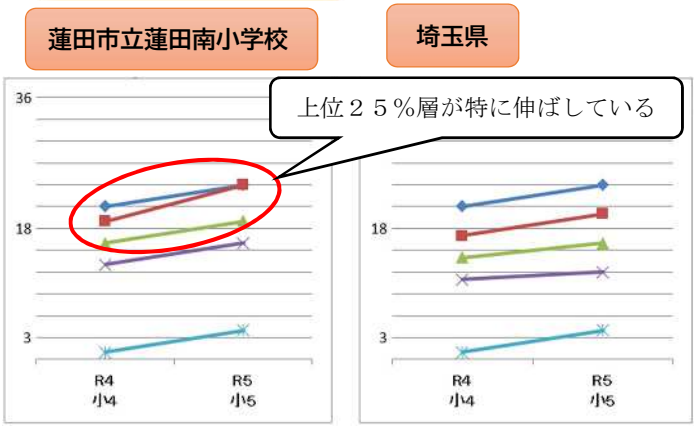
小学校４年生→小学校５年生の取組【算数】

（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



自己効力感		小４	⇒	小５
	自校	3.5	＋0.2	3.7
	県平均	3.5	＋0.1	3.6

小学校４～５年生にかけて、学力のレベルが５上昇し、県平均の伸びを大きく上回っている。また、学力の伸びは、全ての層で順調に伸びている。特に、上位２５％層の伸びが大きい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　交換授業

学年内で国語と算数の交換授業を実施した。交換授業とは、Ａ教諭が、同学年の２学級の算数を担当し、同様にＢ教諭が同学年の２学級の国語を担当するものである。これにより、教材研究が深まり、授業の質の向上につながった。上記は算数についてのデータであるが、国語についても学力のレベルが４上昇しており、効果的な取組であったことを裏付けている。

イ　教材研究ノート

教材研究ノートとは、指導事項や発問、めあて等を授業に備えてまとめたノートである。このような授業準備をする教員が複数おり、若手教員を中心に、この取組が受け継がれている。授業経験の浅い教員も、この取組により、自信をもって授業に臨むことができるようになるとともに、確かな学力を児童に身に付けさせることができた。

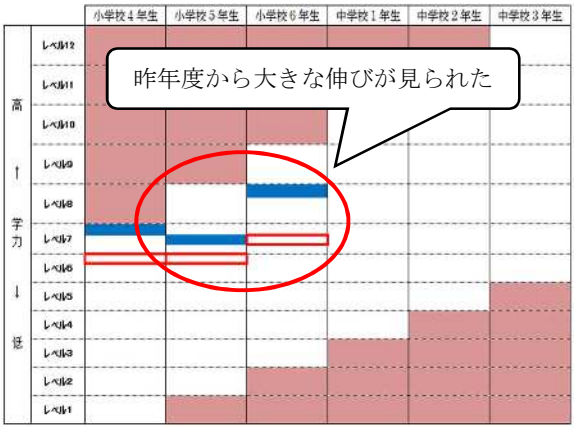
ウ　自己効力感を伸ばす取組（家庭学習で「できた」体験を継続）

教務部の教員が、児童が家庭で取り組んだ計算ドリル等の見届けを丁寧に行った。式や筆算、単位の抜け、また、丸つけが正確にできていない部分などを年間通して指導し続けたことで、家庭学習の質が高まった。

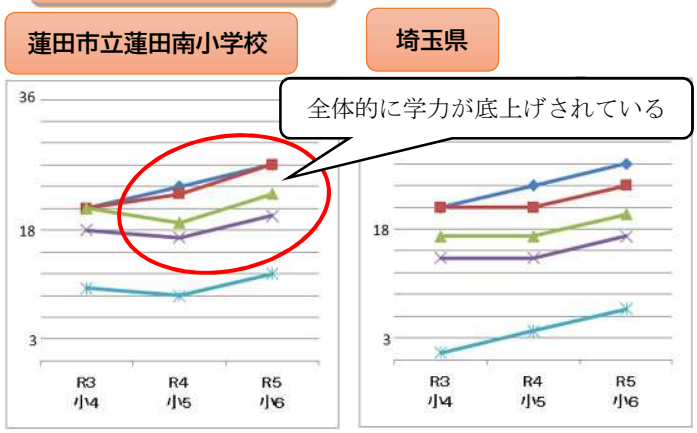
小学校５年生→小学校６年生の取組【国語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



		小５	⇒	小６
自己効力感	自校	3.7	+0.2	3.9
	県平均	3.3	+0.2	3.5

小学校５年生から小学校６年生にかけて、学力のレベルが４上昇し、県平均の伸びを上回っている。また、学力の伸びは、全ての層で順調に伸びている。特に、上位層の伸びが大きい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　学年で行う教材研究

教材研究を深めるため、学年全体で国語科の教材研究に取り組んだ。これにより、ベテラン教員の経験が若手教員にも伝わり、どのクラスの児童も質の高い授業を受けることができるようになった。

イ　自己効力感を伸ばす取組（自分の個性を知る）

本校は、令和２・３年度と学級活動（３）の授業を中心としたキャリア教育の研究に取り組んだ。研究の視点として「自分の個性を知る」ことに重点を置き、友だちから自分のよいところを教えてもらうなどの活動を積み重ねた結果、自分のよさに気づき自信をもてる児童が増えた。

学校全体での取組

（１）蓮田南小がめざすアクティブ・ラーニング

本時のめあてを立て、自力解決、考えの交流を経て、児童が自分の言葉でまとめや振り返りを書く。特に大切にしているのが、１人で考える時間である。教室中に自分の考えを書く音が響くほど、じっくり考えさせている。これが、アウトプット力の育成にもつながっている。これを全校で日々着実に積み重ね、蓮田南小のアクティブ・ラーニングを推進している。

（２）読書貯金

全学年で年間を通して読書貯金という取組をしている。読書貯金とは、児童が読んだ本の冊数やページ数を記録しながら、目標に向けて読書する取組である。目標を達成した児童は表彰され、クラス全員が目標を達成するとクラスとしても表彰される仕組みとしている。

（３）自主学習コンクール・自主学習会議

３～６年生を対象に自主学習コンクールという取組をしている。自主学習コンクールとは、よい学び方をしている児童のノートを優良ノートとして全校児童に広める取組である。Microsoft Teams を活用し、オンライン上で優良ノートを閲覧することができるようにしている。また、その児童へのインタビューの様子を全校児童に配信する自主学習会議という取組も合わせて行っている。

蕨市立東中学校の取組

１　本校の概要

本校は蕨市の東部に位置し、開校 63 周年目を迎えた。全校生徒数は 345 人、学級数 11 の中規模校である。

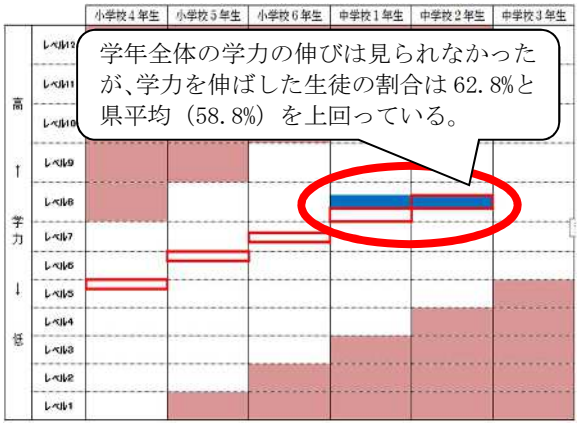
学校教育目標「進んで学習する生徒、明るく心やさしい生徒、体を鍛える生徒」のもと、保護者・生徒・教職員の三位一体による信頼関係の醸成を目指している。令和４年度からの研究課題を「主体的に課題へ取り組む生徒の育成～他者を認め、自立ができる個の育成～」と設定し、健全な自尊心の育成方法や ICT の効果的な活用方法などの研究に取り組んでいる。

２　令和４・５年度の結果

中学校１年生→中学校２年生の取組【国語】

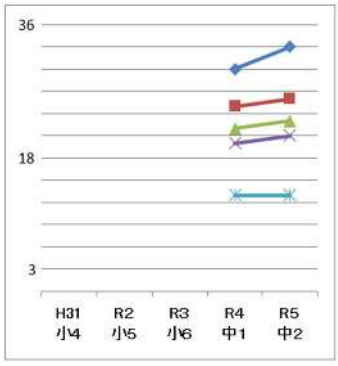
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

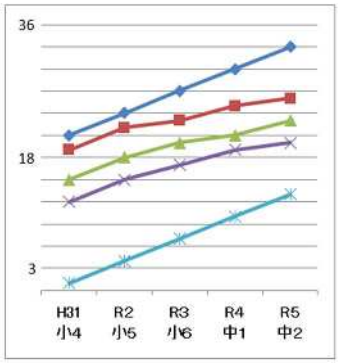


学力の伸びの状況

蕨市立東中学校



埼玉県



		中１	⇒	中２
自己効力感	自校	3.0	+0.2	3.2
	県平均	3.2	-0.1	3.1

○全県的に自己効力感が伸び悩む中で、自己効力感を伸ばしている

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　課題への達成感と主体的に学ぶ態度の育成に関する取組

①毎授業のめあての明確化 ②「しっかり学習すれば答えることができる」という達成感を味わわせ、授業に意欲的に取り組むことができるようにするための毎時間の小テストの実施 ③スピーチ、発表、作文など単元ごとに自分の考えをもつ時間の設定

【学年道徳】

イ　自己効力感を伸ばす学年の取組（共感的に受容する感受性・意欲等を育成する取組）

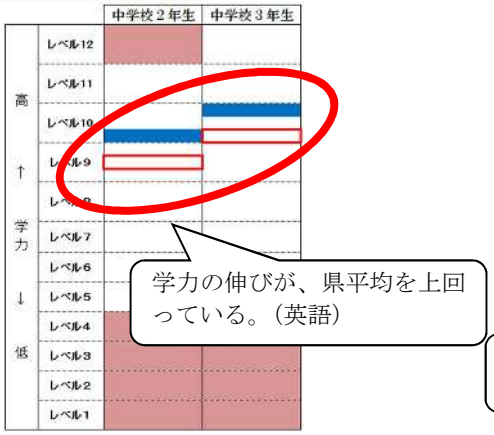
①学年全体で互いの意見を尊重し、共感する「学年道徳」の実施 ②自分の大切さを認めるとともに、他者の心の痛みや感情を共感的に受容する感受性・意欲等を育成する「人権感覚育成プログラム」の実施 ③自分自身の好きなことや好きなものを認識するとともに、他者の考えに共感し、自分自身との共通点を見つけ出す「コラージュ作成」の実施 ④帰りの会における「今日の良かった人」の発表や学級会でのリーダー賞の表彰等の実施

【コラージュ作成】

中学校２年生→中学校３年生の取組【英語】

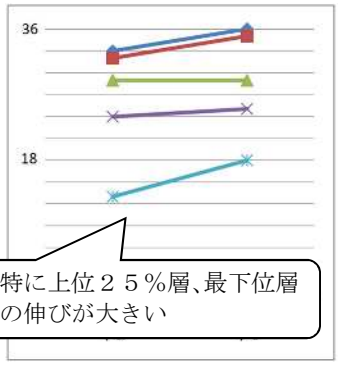
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

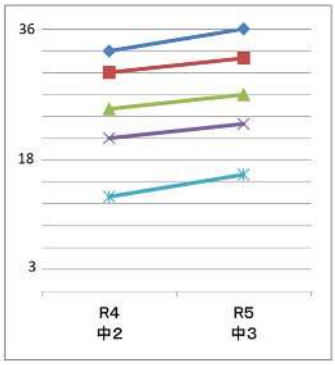


学力の伸びの状況

蕨市立東中学校



埼玉県



		中２	⇒	中３
自己効力感	自校	2.9	+0.3	3.2
	県平均	2.9	+0.2	3.1

○県平均よりも、自己効力感を伸ばしている。
○最下位層の底上げも顕著である。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　基礎基本の徹底と ICT の効果的な活用

①テンポが良く、学習規律を意識したメリハリのある授業展開の工夫 ②ICT を活用した個人・グループ活動と発表場面の設定 ③英語の「話すこと」や「やりとりの力」を強化するためのペアワークの実施 ④授業の終末におけるまとめと振り返りの時間の確保

イ　自己効力感を伸ばす学年の取組（自己を見つめ直し、コミュニケーション力を高める）

①自分自身の好きなことや好きなものを認識するとともに、他者の考えに共感し、自分自身との共通点を見つけ出す「コラージュ作成」の実施 ②他者とのかかわりの中で、コミュニケーションをとって上手な断り方を実践する力を身に付けるための「喫煙防止についてのロールプレイング」の実施 ③ストレスへの上手な向き合い方を実践する「ストレスの矢」の実施

【上手な断り方】

【ストレスの矢】

学校全体での取組

（１）ライフスキル教育の実践

ライフスキル教育として、「秘密の友達」「コラージュ作成」「上手な断り方」など、生徒一人一人が自分らしく、よりよく生きる上での基盤を指導したことで、生徒の自己効力感が向上したと考える。何事にも挑戦する態度が醸成されたことにより、学習への意欲につながり学力が向上したと考える。また、学校全体で授業参観や研修を行い、ライフスキル教育の充実を図っている。

（２）生徒一人一人が授業に集中したり、学びの意欲を高めたりする授業づくり

学校では、一人一人の学ぶ意欲を高めるために、次のような取組を行っている。①生徒の興味・関心をひく導入の工夫 ②ねらいの明確化と振り返り時間の確保 ③「わかる」「できる」「楽しい」を実感させる授業づくり ④説明責任が果たせる適切な評価 ⑤ICT を活用した授業づくりである。また、対話的な学びを意識して取り入れており、３年生では、相手のことを思いやって行動する向社会性が県平均を大きく上回るといった成果にも結び付いていると考えている。

所沢市立富岡中学校の取組

１　本校の概要

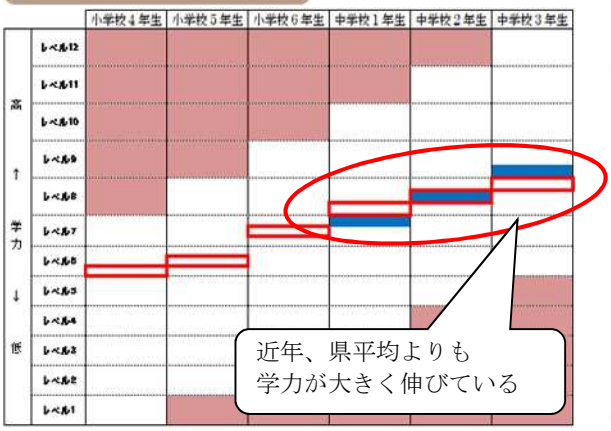
本校は、所沢市の最北に位置し、周囲を田畑に囲まれ、農業と深くかかわっている地域である。所沢町立富岡中学校として開校して７７年目を迎え、８学級２２７名の市内で最も小規模な中学校である。「正しく判断して行動できる、心身共にたくましい生徒の育成　○共に学び考える生徒　○豊かな感性と社会性を持つ生徒　○活力あるたくましい生徒」を学校教育目標に掲げ、『心を鍛える三つの心「進取」「親切」「辛抱」』を教育方針に、地域と伝統を大切にする学校である。

２　令和４・５年度の結果

中学校２→中学校３年生の取組【国語】

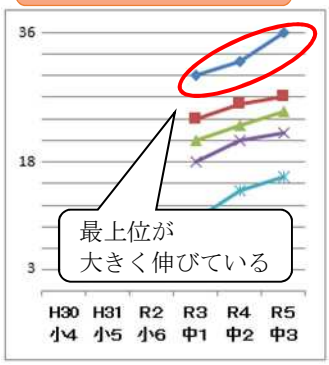
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

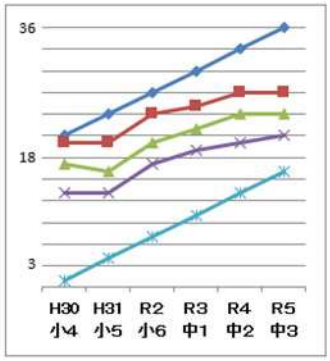


学力の伸びの状況

所沢市立富岡中学校



埼玉県



		中２	⇒	中３
自己効力感	自校	3.1	+0.3	3.4
	県平均	2.9	+0.2	3.1

○ 県平均よりも、自己効力感を伸ばしている。
○ 最下位層の底上げも顕著である。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　３学年共通で行っている授業形態

授業の初めの５分間で漢字練習を行っている。その際、①漢字を書く②漢字の読みを声に出して読み、耳で聞く③辞書を使って調べる、の３段階で行い、「書く」、「話す・聞く」、「読む」に係る資質能力の育成をまとめて行っている。

授業では、「どのように社会生活で活用できるか」という観点から、「めあて」を共有し、授業終わりの「まとめ・振り返り」に向かって、毎時間取り組んでいる。

授業内では、個人→小グループ→クラス共有の順で学習活動に取り組み、問題を解き終えた生徒と、問題を解くことに困難を示す生徒が協力して解答する相互学習の機会を多く設けている。

イ　自己効力感を伸ばす取組（教え合い学習の推進）

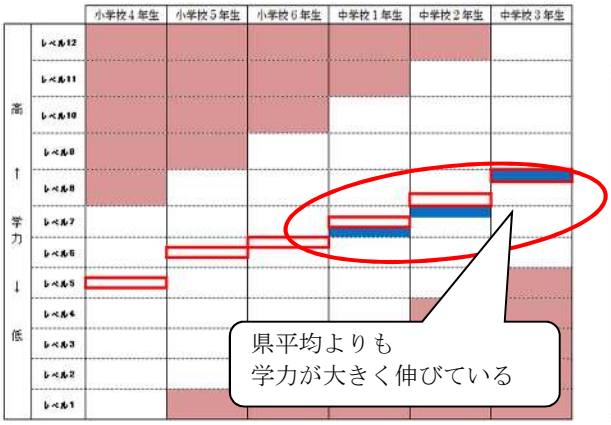
漢字練習で辞書を使って調べる際には、早く調べ終えた生徒に周りでまだ引き終えていない生徒のサポートをする役割を持たせ、互いに話しかけやすくコミュニケーションを取りやすい雰囲気を醸成している。全員が早く、正確に問題解決できるよう協力することで、問題解決能力の向上に努めている。

教え合い学習の機会を増し、自らの考えを伝える力、他者の意見を聞く力を育むことで、社会生活で求められるコミュニケーション能力を養い、自他を認め合う機会を増やしている。

中学校２→中学校３年生の取組【数学】

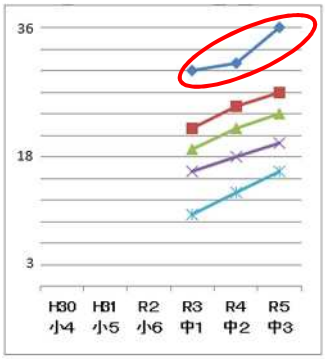
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

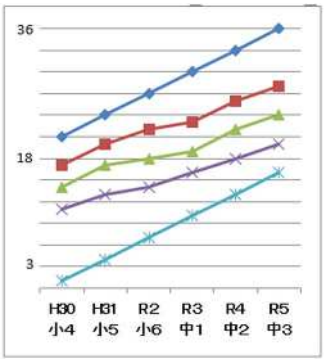


学力の伸びの状況

所沢市立富岡中学校



埼玉県



自己効力感（再掲）		中２	⇒	中３
	自校	3.1	+0.3	3.4
	県平均	2.9	+0.2	3.1

○ 中２のときまでは県平均の学力よりも低かったが、中３で県平均の学力に並んだ。
○ 伸びが県平均よりも大きく、特に上位層は５段階高くなっている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　基礎学力の定着を図る取組

毎回の授業冒頭で、前時までの学習内容を確認・復習し、本時の内容とのつながりを捉えさせ、安心感を持たせてから本時の内容に入る。また、週１回計算分野の小テストを５分間で実施し、問題を解く経験を積み重ねさせている。

イ　自己効力感を伸ばす取組（主体的に取り組む態度を育成）

互いに話しかけやすい雰囲気づくりに努め、早く課題を終えた生徒と解き方がわからない生徒との教え合いを促し、生徒同士で学び合う時間を充実させた。

授業中、時には挙手を求めず、生徒からの自由な発言を認め、教師と生徒とのやり取りを充実させた。生徒との自然な雰囲気の対話を大切にしている。

生徒の「なぜ？」を言葉で表現するための補助発問を工夫し、生徒自身が導いた形へ誘導する発問をすることで、ひらめきを論理的思考に変換させ、達成感・充実感を味わわせる。

学習内容に応じたプリントを作成し、板書を写す時間を最小限にすることで、生徒が考えをまとめる時間の確保している。

学校全体での取組

（１）基礎学力の定着への取組

本校では小学校で習う内容を含む基礎学力が定着しておらず、中学校の授業についていけない生徒の割合が相対的に高かった。この問題の改善のために、長期休み明けや水曜日の放課後の時間に、予め漢字や計算、単語等の範囲を指定した基礎学力コンテストを全学年実施した。合格点に達していない生徒については、個別指導を継続することで８割等の合格ラインに到達するまで粘り強く定着を図った。また、家庭での学習習慣の確立に向け、令和４年度まで毎日自主学習ノートを生徒に提出させた。学年単位では、生徒会活動や班活動の中で工夫した取組も行われた。定期テスト前で部活動がない日には、放課後質問教室を開催し、個別に学習支援も行っている。

（２）教員の資質向上への取組

令和４年度は「生徒の表現力向上」をテーマに掲げ、教員の授業実践及び改善を図った。指導案を作成して他教科の教員にも授業見学をしてもらい、協議をしていく中で授業改善につなげていった。また、埼玉県学力・学習状況調査や授業アンケートの分析をし、生徒の実態を把握すると共に授業者の授業改善にも役立てた。

上里町立上里北中学校の取組

１　本校の概要

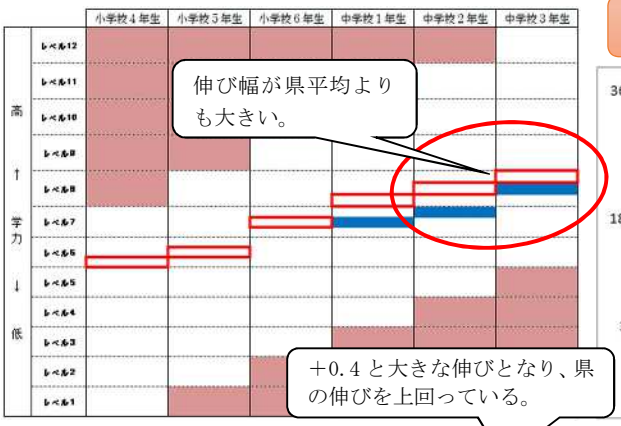
本校は、埼玉県の中でも最北端に位置する中学校であり、烏川、神流川の２大河川を境に群馬県と隣接する自然豊かな学校である。全校生徒数 311 人、学級数 12 学級の中規模校である。目指す学校像を「豊かに学び、生徒を繋ぎ、自己肯定感をはぐくむ、笑顔のあふれる学校」として掲げ、学校教育目標「かしこく　やさしく　たくましく」の具現化を図っている。また、上里町で取り組んでいる「学び合い学習」を学校研究の中心に位置付け、学力向上の推進を図っている。

２　令和４・５年度の結果

中学校２年生→中学校３年生の取組【国語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

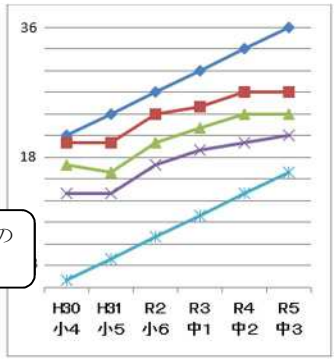
今までの学力の変化



学力の伸びの状況

上里町立上里北中学校

埼玉県



		中２	⇒	中３
自己効力感	自校	2.8	＋0.4	3.2
	県平均	2.9	＋0.2	3.1

○ 学力に相関関係のある「自己効力感」について県平均を上回る水準まで大きく伸ばている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　言語活動の充実と学習の振り返り

２年生の国語では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、様々な単元で教材に合わせた言語活動を設定し、取り組ませた。また、毎時間、授業の終わりに学習の振り返りを記入させ、学習の自己調整力を高めるとともに、生徒の振り返りに対して教員のコメントを記入することで学習への意欲付けを図った。

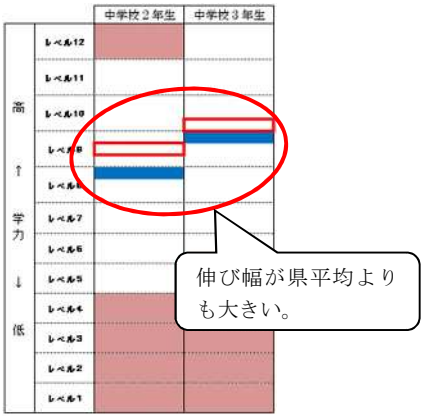
イ　自己効力感を伸ばす取組（学び合い学習）

「学び合い学習」を進め、生徒同士のつながりを意識した授業展開を行った。ペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、学習に困り感を抱いている生徒や学びに向かうことが困難な生徒などが他の生徒とつながりをもち、分からないことを訊き合いながら課題に取り組むことで、「できる、できた」を実感できる授業づくりを進めた。また、授業だけでなく、学校生活や行事など様々な場面で、教員が生徒をほめ、認める声掛けやメッセージを伝えることで、教員と生徒のつながりも意識して行った。

中学校２年生→中学校３年生の取組

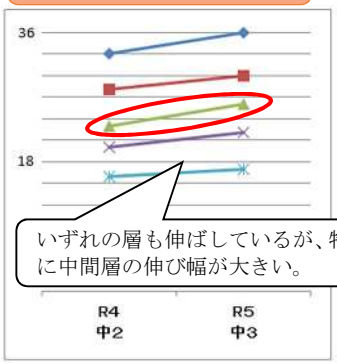
（１）学力の伸びから見られる特徴【英語】

今までの学力の変化

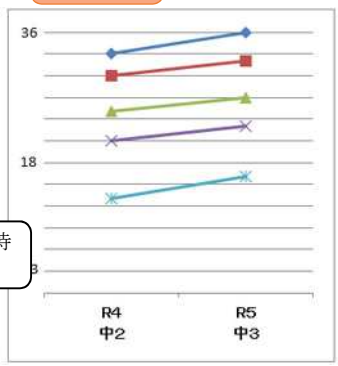


学力の伸びの状況

上里町立上里北中学校



埼玉県



自己効力感（再掲）		中２	⇒	中３
	自校	2.8	+0.4	3.2
	県平均	2.9	+0.2	3.1

○ 学力に相関関係のある「自己効力感」について県平均を上回る水準まで大きく伸ばている。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　１人１台端末の利活用や学び合いの充実

Writing の指導の際は、生徒一人一人、各自のタブレット端末にテーマに沿って記入させ、書いた内容をグループで互いに確認し合いながら協働的に学習を進めるなど、様々な場面でタブレット端末を活用した。学び合いの充実では、授業中に必ずペアやグループでの学習を取り入れることで、生徒同士が学び合う場面を設定し、一人一人が主体的に学びに参加できるようにした。また、授業の導入で既習内容を使った Small talk をさせることで、学習を定着させるとともに自ら英語を発信する力を高める指導を行った。

イ　自己効力感を伸ばす取組（生徒同士の良好な関係づくりやよい雰囲気の確立）

帰りの会で生徒が他の生徒の良かった点を伝える「誉チャレンジ」や、学期末に男女別で８つの部門における表彰（「きらめき賞」「身だしなみがよかったで賞」等）など、生徒同士が認め合う場面や教員が生徒をほめて認める場面を積極的に設定し、良好な関係や良い雰囲気の中で生徒が前向きに活動に取り組める学年・学級を作った。また、そのような仲間との関係性や雰囲気を生かし、生徒同士が協働的に授業に取り組み、達成感を得られるよう学び合い学習を充実させた。

学校全体での取組

（１）（県学調）復習シートの活用

復習シートを冊子にして生徒に配布し、各自の実態に応じて取り組ませている。解答を学校のホームページに掲載し、答え合わせや間違えた問題の解きなおしができるようにしている。また、日頃の授業でも復習シートの活用を図っている。

（２）学び合い学習や自己効力感を高める取組　　（＊アセス…学級所属感調査）

学び合い学習を学校研究の中心に位置付け、全ての教科で協働的な学習に取り組んだ。ペアやグループでの学習を積極的に行い、生徒同士が訊き合える関係づくりやつながりを意識した授業を行うことで、主体的に学びに向かう生徒の育成を図った。また、その素地として、１年生は５月に神川げんきプラザで人間関係づくりを目的にしたアドベンチャー学習を実施した。さらに、全校でアセス（＊）を実施し、学級経営や個別指導に生かした。

羽生市立西中学校の取組

1　本校の概要

本校は、全校生徒 377 人、学級数 13 学級の中規模校である。学校教育目標「自ら学ぶ生徒」「思いやりのある生徒」「たくましく行動する生徒」の実現に向けて、教育活動に取り組んでいる。

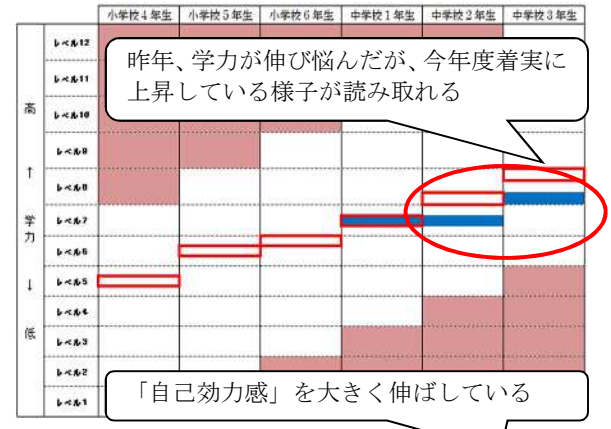
また、研究主題を「主体的に学び、確かな学力を身につける生徒の育成」とし、スローガンとして「よく見て、よく聴いて、よく考えて・・・」を掲げ、日々、授業づくりに、全教職員を挙げて取り組んでいる。

2　令和４・５年度の結果

中学校２年生⇒中学校３年生の取組【数学】

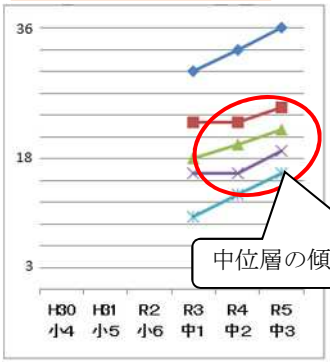
（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化

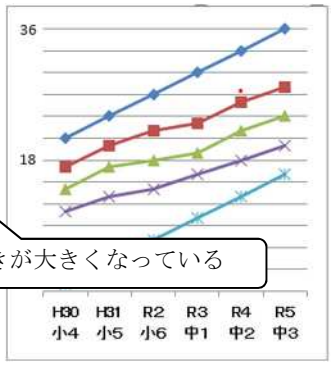


学力の伸びの状況

羽生市立西中学校



埼玉県



		中２	⇒	中３
自己効力感	自校	2.8	＋0.4	3.2
	県平均	2.9	＋0.2	3.1

○ 学力を伸ばした生徒の割合が７５．６％と高く、下位２５％層の伸びが大きい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　学び方の指導

例題を真似てやってみること、図に書き込んでみること、テスト直しの方法など、折に触れ数学の学び方を生徒に伝えた。また、前時のノートを見返して解決方法を考えている生徒や、「教えて」「どういうこと」と他の生徒に聞くことができている生徒に称賛の声掛けを行ったり、ノート点検時に、生徒にコメントを書いたりすることで、学習意欲が向上したと考えられる。

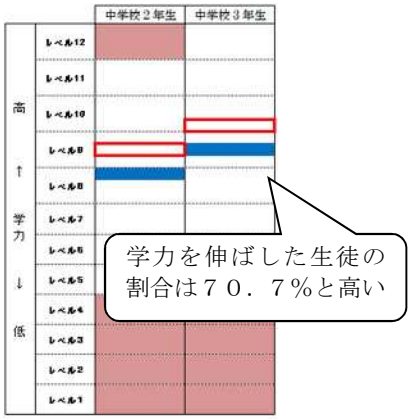
イ　自己効力感を伸ばす取組（生徒との対話から始まる授業）

授業の導入では、生活の場面を想起できるようにしたり、前時までの学習内容とのつながりを意識できるようにしたりして、生徒との対話の中から本時の学習課題を提示できるようにした。本時の内容に関連する既習事項（前年度の内容）の学び直しを実態に応じて行ったり、前時との違いに気付くことができるようにしたりして、生徒の発言から課題解決への見通しをもてるようにしたことが、「できるかもしれない」「やってみよう」という意欲につながり、自己効力感の向上につながったと考えられる。

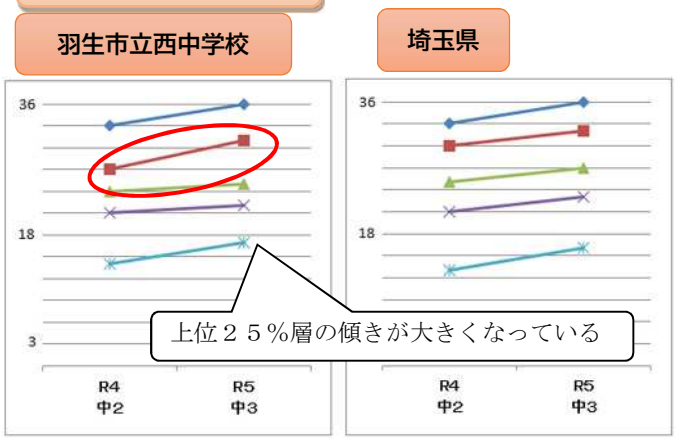
中学校２年生⇒中学校３年生の取組【英語】

（１）学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



自己効力感（再掲）		中２	⇒	中３
	自校	2.8	+0.4	3.2
	県平均	2.9	+0.2	3.1

○ 自己効力感を大きく伸ばしている学年であり、上位２５％層の学力の伸びが大きい。

（２）伸びを引き出した効果的な取組

ア　家庭学習ノートの充実

単元テストや学期はじめの単語テスト、定期テストの振り返りとして、練習用ノートに間違い直しをして、提出するようにした。それを繰り返すことで、生徒は自分のミスを修正し学び直しをすることができた。また、自分の言葉で、自分のテスト結果について自己分析するようにしている。単語や文法問題、英作文等について「自分はなぜ正解できたのか」「なぜ間違えたのか」を考えるようにすることで、生徒自身が自らの学びについてメタ認知を行うことができた。その際、教員の答えを生徒に提示することで、教員と生徒の信頼関係が高まり、学習意欲が向上したと考えられる。

イ　自己効力感を伸ばす取組（学びあい）

２年生から英作文を書く時間を各セクションで毎回設け、自分なりの英作文を作成できるようにした。その中で、文法のミスや単語のスペルミスなどの間違いを生徒同士で教え合う時間を設けた。生徒相互で学び合うことで、間違いに気付くことができるだけでなく、称賛や感謝の言葉が自然とあふれるようになった。その結果、生徒がやりがいや達成感を味わうことができ、自己効力感も向上したと考えられる。

学校全体での取組

（１）西中スタイル「課題設定→学びあい→ふり返り」の確立

授業において「課題設定→学びあい→ふり返り」の一連の流れ【西中スタイル】と、生徒に「見通し」を持てるようにした授業の実施を教職員間で共通理解した。また、日々の相互授業参観により様々な先生が出入りする「開かれた教室」を実現し、互い授業を磨いている。

（２）生徒のスケジュール管理能力の育成

毎週金曜日の朝に来週のスケジュールを管理する時間を設ける。具体的には生徒会中心に来週の予定をオンラインにて確認し、手帳に各自記入している。

（３）教科指導におけるキー・コンピテンシー（身に付けてほしい資質・能力）の明確化

教科指導におけるキー・コンピテンシーを明確にし、指導計画に位置付ける。また、キー・コンピテンシーを育成するための効果的な方法を工夫する（教師用個人取組計画シートの作成）。